

# 硫黄が噴出し生まれた特異な地理

わしばだけ いおうだけ たかせけいこく  
鷺羽岳・硫黄岳・高瀬渓谷 生物群集保護林

## 設定目的

本保護林は鷺羽岳（2,924m）の南・東斜面と真砂岳（2,862m）の南斜面に位置し、亜高山帯に至る高山草原、低木群落等の原生的な植生を保護しています。

また、硫黄岳（2,554m）と赤岳（2,416m）を結ぶ硫黄尾根の北斜面は、硫黄噴出の影響等により全山にわたって植生がほとんどない状況となっており、特異な地理となっています。

## 地況・林況

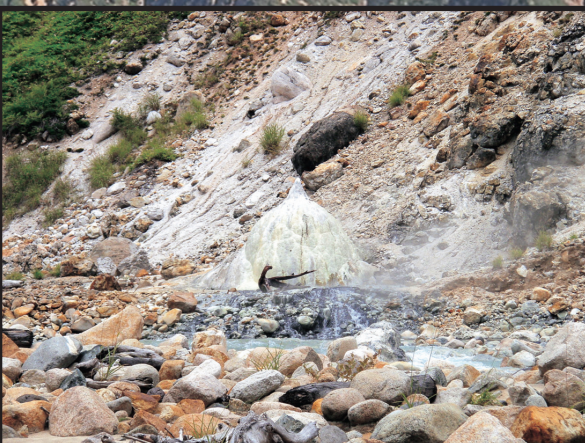
信濃川の源流の一つである湯俣川左岸（北側）から鷺羽岳に至る斜面に位置し、湯俣川左岸はカラマツ、キタゴヨウ、コマツガ等から構成される亜高山帯針葉樹林及び高山帯の原生的な植生となっています。硫黄岳の北斜面の上部にはダケカンバ群落、下部にはコマツガ、シラビソ、オオシラビソ、クロベ等の亜高山帯針葉樹林が広がっています。硫黄岳西側は植生が少なく裸地化しており、崖壁・岩隙植物群落となっています。

湯俣川には、石灰華を主体とする温泉沈殿物が河床に堆積し小さな火山のような形をした噴湯丘ができており、中央の湧き口に白い豆粒状の球状石灰石ができる珍しい現象が見られることから、国の天然記念物「高瀬渓谷の噴湯丘と球状石灰石」に指定されています。噴湯丘の周囲は、コマツガを主体とする針葉樹林です。

所在地  
長野県大町市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。



天然記念物 高瀬渓谷の噴湯丘

シリーズ

中部の保護林(第13回)

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。